

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：国立高等専門学校機構（総括責任者：小畑 秀文）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

男女共同参画推進室に女性研究者支援オフィスを開設し、コーディネーター及びキャリアカウンセラーを配置する。このオフィスにおいて、研究支援者の配置調整、Web 上や研究交流会を通じた女性研究者のネットワークの構築、キャリア相談及び啓発資料の作成等に取り組み、女性研究者の研究力の飛躍的向上と研究環境の改善を強力に推進する。

(2) 研究を支援する者の配置計画

ライフイベントにあたり支援を必要とする研究者を対象に、教育研究活動の補助を行う研究支援者を配置する。支援者は、高専・大学等の離職者、大学院生等から雇用する。(平成 24 年度：5 名、平成 25・26 年度：10 名配置予定)

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
S	s	a	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

理事長の強力なリーダーシップの下、機構本部と全国の各高専が連携して事業に取り組み、女性限定公募、女性教員採用へのインセンティブ付与、研究支援員の配置、女性研究者ネットワークの構築、メンター制度やキャリア支援など、さまざまな取組を着実に実施し、所期の計画を超えた成果を上げたことは、高く評価できる。

- ・ **目標達成度**：女性研究者の採用者数・比率、女性研究者の在籍者数・比率に関する目標は、ほぼすべてを達成し、一部の目標については当初計画を大きく上回る実績を上げたことは高く評価できる。また、女性研究者が少ない工学系において、上位職種の女性研究者が増加したことも高く評価できる。
- ・ **取組**：女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援を中心として、研究支援員の配置、女性研究者ネットワークの構築支援、メンター制度などの取組を推進するとともに、教職員各層において意識啓発の取組を展開しており、評価できる。
- ・ **取組の成果（システム改革）**：各高専における意識改革が進み、女性限定公募や女性優先公募につながった。また、本事業の取組により、女性研究者の科学研究費補助金の採択率が向上し、研究の質が向上したことは評価できる。さらに、女性研究者の交流システムがオンラインとオフラインの両方で構築され、効果を上げていることも評価できる。

- **実施体制**：理事長の強力なリーダーシップの下、事業が推進されたことは高く評価できる。理事長直轄の男女共同参画推進室を中心とする体制と高専相互のネットワークがバランス良く機能しており、高く評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も事業の継続が決定しており、自主経費も確保されていることは評価できる。中期計画（H26～H30）においても、女性教員比率の向上を図ることが明記されており、評価できる。